



朱鷺と暮らす郷づくり

「朱鷺と暮らす郷」認証米とは？

以下の4つの認証基準をクリアした佐渡産コシヒカリで、売り上げの一部はトキ保護募金に寄付されます。

【認証基準】

- 1) 佐渡産のお米であること
- 2) 栽培者が新潟県が認定するエコファーマー(※)であること
- 3) 農薬や化学肥料を使わないで栽培されているか、または佐渡地域慣行栽培基準から5割以上減らしていること
- 4) 江の設置、冬期湛水、水路や魚道の設置、ビオトープの設置といった「生きものを育む農法」により栽培されていること

※エコファーマーとは、土壌診断に基づく土作り、化学肥料・農薬の低減に取り組み、安全・安心な農業を実践する農業者のことです。



トキ認証米はしっかりとした食感と、噛みしめるほど口の中に広がる甘みが自慢です。



里田さんを「朱鷺と暮らす親善大使」に任命。

この数字をチェック!

「朱鷺と暮らす郷づくり」認証制度 取組実績

(H22.5.10現在見込)

年度	面積	農家数
平成20年度	426ha	256戸
平成21年度	862ha	510戸
平成22年度(見込)	1,234ha	695戸

6月13日(日)・8月1日(日)は 「佐渡生きもの調査の日」

田んぼにはどんな生きものがすんでいるのか、その種類や数を調べてみましょう。田んぼの環境の豊かさと、収穫されるお米の安全性がわかります。

「佐渡Kids生きもの調査隊」に参加
したい! という方、いつでも大歓迎

です。

詳しくは、市役所農林水産課生物多様性推進室 ☎63-3761 (市役所第2庁舎) まで。

放鳥されたトキが空を舞い、田んぼでエサをとる姿を見る機会も増えました。トキと共生していくための「生きものを育む農法」が農家に浸透し始め、認証制度への取組みは着実に増加しています。

この制度で作られたトキ認証米は、通常より3割以上値段が高いにもかかわらず好調な売れ行きで、21年産は今秋までに完売の見通しです。

今年度も引き続き首都圏・京阪神等の大都市を中心とした販路拡大を目指すとともに、10月に名古屋市中で開催される「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」に合わせ、名古屋市中辺での販売拡大を図ります。さらに販売のみならず、佐渡全体を発信するこ

今年度の主な取組み

とで、観光への波及も期待しています。

また、今年度は、小学4年～6年生で結成する「佐渡Kids生きもの調査隊」が、田んぼの生きもの調査のほかに、無農薬・無化学肥料での米づくりに初挑戦します。この活動を通して、トキの野生復帰や、人と自然・生きものとのかわり、食について学んでいきます。

そして未来を担う子どもたちが、佐渡の環境を学びながら、健全な食生活を実践できるよう、安全・安心でおいしいトキ認証米を学校給食で提供します。すでに米飯給食ではトキ認証米を導入していますが、新たにパン給食でもトキ認証米から作った「米粉パン」を6月から導入しています。

今後も、農家、JA、行政の連携による取組みを進め、豊かな環境から佐渡の活性化を図っていきます。